

しゅうれんかい (修練会) からのメッセージ

公益財団法人豊島修練会 2017年4月12日号 (通算第20号)

子どもたちへ (小さなお子さんには読んであげてください)

次の当てはまるところに、○を付けてください。いくつ○を付けてもいいです。

- () いじめられたことがある。 () いじめたことがある。
- () 自分はいじめをしていない。 () これからもいじめはしない。
- () いじめをされたら、先生やお父さん、お母さん、家族に相談する。
- () いじめられている人がいたら助けてあげる。
- () いじめられている人がいたら、先生やまわりの大人の人に知らせる。

どうでしたか？ いじめは友達を悲しめるとてもいけないことです。絶対にいじめをしないようにしましょう。



大人の皆様 (パパ&ママ、ジジ&ババなど)



ほとんどの保護者は、「学校で我が子が、もしやいじめられていないだろうか？」と心配している。また、AをいじめたとされたBは「〇〇だったから…」「遊びのつもりだった…」などと言いつけたり、Bの関係者は「うちの子どもはいじめしていないと言っている…」「いじめられる側にも理由がある…」などと弁護したりすることが少なくない。

いじめとは、「心理的・物理的に影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む）であって、子供が心身に苦痛を感じているもの」であるということを再確認する必要がある。そして、一番大事なことは「我が子にはいじめを絶対にさせない」「我が子は、いじめをしていない」と言い切れる状況にすることである。そうなれば、「いじめられる子」はいなくなるのである。

学校の先生がたへ

学校・教員の多くは、「いじめられる子を0（ゼロ）にしたい」と思って、学級経営の充実、道徳科の授業の工夫、特別活動（特に学級指導）、生徒（生活）指導の充実などに努力している。

しかし、いじめ問題に無関心であったり、いじめられる子供の方にもなにかがしかの要因があるとしたり、当該の子供の心身の苦痛の有無を軽んじ「いじめであるかどうか判断できないということで指導・対応を先送りになったりしているという状況があるようである。

このような学校では、ことが表に出ると、はじめは「いじめの事実はなかった」と申し開き、事態が大きくなると「指導・対応が不十分だった。十分調べて、今後はそのようなことのないようにしたい」となり、調査・確認し最終的には「いじめがあった。当該の子供及び関係者に心からお詫びしたい。今後は、再発しないよう取り組みたいと思います」という対応になることが多く、虚しくかつ残念に感じる人が多い。そこで、先生方に「自分の学級の子供たちは、絶対にいじめをしていない」と、言い切れる指導をお願いした。(YAYU)

★備考★なお、話題提供として本を紹介しているだけで購読を勧めるものではありません。[成美教育文化会館]で検索すると、「かけはし」「メッセージ」「Q&A」「ほん本ブック」及び「一字荘」「至楽荘」「会館の会場貸出」など様々な情報が閲覧できます。ご利用ください。



